

中国貨幣の歴史

31 元代の貨幣①—元朝の紙幣制度—



しげんつうこうほうしょう
至元通行宝鈔

(印刷原版より作成したもの)



印刷原版

元朝紙幣の印刷は、当初木版が使用されたが、大量発行に伴い銅版(写真)に変更された。

(写真は実物×33%)

元朝が発行した紙幣は、長期にわたり流通した「中統元宝交鈔」、「至元通行宝鈔」のほか、「至大銀鈔」等数種類が知られている。紙幣面には、名称、額面、印刷機関、通用期限・範囲を限定しないこと、偽造者は死罪、偽造の密告者への賞与等が記されている。「中統元宝交鈔」の額面は10文～2貫まで10種類で、「至元通行宝鈔」はこのほかに小額の5文のものがあった。

13世紀に、金、南宋を滅ぼし中国を統一した元は、銭貨の使用を禁止し、紙幣を唯一の通貨とする貨幣政策を実施した。紙幣と金・銀との兌換機関、傷んだ紙幣の交換機関を設置し、専売事業・徴税等を通じた紙幣の回収により流通量を調整する紙幣の発行・運用システムを整備し、14世紀半ばまで比較的安定した流通状況が続いた。しかし、元末の各地での反乱等を背景とする紙幣濫発と価値暴落により、元朝の支配力低下と相俟って、元朝の紙幣制度は破綻・崩壊する。

モンゴルは、1234年に「金」(1115～1234年)を滅亡させ華北を支配下に置く。世祖フビライ(在位1260～1294年)が即位すると、支配の重点を中国に移し、カラコルムから大都(現在の北京)に遷都し(1267年)、国号を中国風の「元」(1271～1368年)と定め、1279年には南宋を滅ぼして中国を統一する。

元朝は、商業を重視し、東西交易路の確保や、江南の米等を華北へ搬送するための運河の整備等を進めるが、物流の円滑化とともに支配の強化を図るうえで、貨幣を統一し、膨大な貨幣需要を満たす必要に迫られる。

元朝の貨幣政策は、錢貨を通貨の中心とした中国歴代王朝とは異なり、「鈔」と呼ばれる紙幣を通貨の中心に置いた点が特徴で、1260年、フビライは「中統元宝交鈔(中統鈔)」を発行する。その成り立ちは金末の貨幣の流通事情が大きく影響している。金末の華北では、銅錢は国外流出や鋳潰し等により絶対量が不足する中、地方の軍事勢力により発行された各種紙幣のほか、銀や絹が主たる貨幣となっていた。そうした中で、銅錢は銅原料・資源の制約から大量鋳造が困難であり、銀は対西アジア交易の支払い手段として元朝が確保しておく必要があるため、低コストで迅速かつ大量に製造が可能な紙幣を唯一の法定通貨として発行する。紙幣は、金末期には軍事勢力による濫発により信用を失いつつあったが、モンゴルの属領となってからは、徴税による政府への銀の回収が進んだため、これに代わるものとして主たる流通手段になっており、中統鈔は受容されていく。中統鈔の流通域は南宋併合とともに拡大されるが、旧南宋領域においても対金戦争時に紙幣「東南會子」が発行され、紙幣流通の素地があった。

フビライは、紙幣の発行に際し、民間での金・銀の売買と錢貨の使用を禁止し、紙幣と金・銀との兌換機関(「平準庫」・「平準行用庫」)、傷んだ紙幣の交換機関(「回易庫」)を設置する。また、政府の専売品である塩の購入代金を紙幣で支払うことを義務付けたり、紙幣による納税等により、紙幣を回収して流通量を調整し、紙幣価値を安定させる制度を整備する。

こうした紙幣の発行・運用システムにより、元朝の紙幣は安定的に流通したが、日本(1274・81年)やベトナム(1284・87年)への出兵、南宋併合等に伴う財政支出の増大を背景に中統鈔の発行高が急増し、紙幣価値の下落を招いた。このため、1287年、中統鈔より流通価値を高めた新紙幣「至元通行宝鈔(至元鈔)」の発行(至元鈔1貫＝中統鈔5貫)により対応する。民間では価格表示基準として中統鈔が浸透していたため、これ以降、中統鈔・至元鈔の新旧紙幣の併用体制とする。中統鈔・至元鈔の併用体制は、一時的な新紙幣・銅錢の発行(1309～1311年)という曲折を経るが、価値下落をはらみつつも、元末の1340年頃まで比較的安定した流通状況が続く。

1340年代後半になると、朝廷内が権力争いで混乱状態となる中で、各地での反乱に対処するための支出拡大で紙幣が濫発され、紙幣の価値下落が顕著になる。1350年、銅錢「至正通宝」を鋳造・発行するとともに歴代錢貨の通用も認め、またこれら錢貨と等価とする新たな中統鈔(錢貨1000文＝中統鈔1貫)を発行し、錢貨により紙幣価値の保証を図る改革を断行する。しかし紅巾の乱(1351～1366年)が起り、元朝の支配力が低下する中で、銅錢に対する紙幣価値の暴落により、元朝による紙幣制度は破綻・崩壊を余儀なくされ、ほどなく元朝は滅亡する。

[山岡直人、日本銀行金融研究所貨幣博物館]

[参考文献]

高橋弘臣、『元朝貨幣政策成立過程の研究』、東洋書院、2000年

前田直典、『元朝史の研究』、東京大学出版会、1973年

宮澤知之、「元代後半期の幣制とその崩壊」、『鷹陵史学』28、鷹陵史学会、2002年